

失敗を経験すること

ある美術学校でのエピソードを紹介します。

陶芸の授業で、最初に担当の先生がクラスを2つのグループに分けました。

そして、一方のグループの生徒たちには、「とにかくたくさん作品を作った人をその個数で評価します。」と、作品を「量で評価する」ことを予告します。



もうひとつのグループの生徒たちには、「よくできた作品のみをその出来栄で評価します。」と言って作品の出来ばえ、つまり「質によって評価する」ことを学生に告げたのです。

そして、提出のしめきり日が来ました。その結果、興味深い事実が明らかになります。

優れた作品はすべて、「量で評価する」と告げられたグループの生徒が作ったものだったということです。

「量で評価する」と告げられたグループの生徒は、たくさん作品を作っていく中で、いくつもの失敗をしてそこから学ぶことで、いい作品を次々と作り出すことができたということです。それに対して、「質で評価する」と告げられたグループの生徒は、完璧な作品を作ろうと思うあまり、いろいろな頭で思い巡らすばかりで、なかなか手を動かさなかったため、結果として残ったのは頭の中のイメージと未完成の作品だけだったということです。➤

このエピソードは、勉強やスポーツ、文化活動、そして人間関係など、いろいろな分野にも共通しているのではないかと思います。

経営学者のドラッカー氏は、次のように言っています。

「まちがいや失敗をしたことのない人だけは信用してはならない。そのような人は、無難なことや安全なことしか手をつけない。優れている人ほど多くのまちがいをするのである。」

何かにチャレンジすれば、誰だってそのうちの何回かは必ず失敗します。人間がやることで100発100中の成功なんて、この世にはありません。

私たちが成長するためには「トライ・アンド・エラー（挑戦と失敗）」をくり返すことが大切です。そして、その失敗を経験という財産に変えていくことです。失敗を恐れないで挑戦する人こそが、成長することができるのです。

「失敗を恐れず挑戦する。」「倒れたらまた起き上がる。」「何回失敗しようがそこから起き上がり、あきらめずにチャレンジし続ける人に、運命の女神もきっといつか微笑みかけるのです。」

※参考文献：「一勝九敗」の成功法則（知的生きかた文庫）



生徒会認証式がありました。

10月28日(月)、生徒会新役員の認証式がありました。これまで生徒会をけん引してきた3年〇〇〇〇会長をはじめとする執行部から、2年〇〇〇〇会長をはじめとする新執行部への交代の時となりました。大きな役割をやり遂げた人たちと、これから大きな役割を担う人たち。それぞれの表情や態度にとても感動しました。旧執行部の皆さんおつかれさまでした。皆さんの取り組みのおかげで、錦ヶ丘中はまた新たな高みへと向上しました。ありがとうございます。新執行部の皆さん、これからの錦ヶ丘中をどうぞよろしく願います。



▲最後のあいさつをする旧執行部の皆さん

◆お知らせ・お願いです。

○男子バレー部の3年〇〇〇〇くん、2年〇〇〇〇くん、女子バレー部の3年〇〇〇〇さんが、それぞれ熊本県選抜のメンバーに選ばれ、12月に大阪で開催される「JOC都道府県対抗中学バレーボール大会」に参加します。3人の健闘と熊本県チームの躍進を期待しています。

3人の皆さん、がんばってください。

○11月1日より道路交通法が改正され、自転車運転中にスマホを見たり操作したりする行為(ながらスマホ)に対して、罰則が適用されることとなります。自転車運転中の重大な事故を防ぐため、交通ルールやマナーを守りましょう。ご家庭でも、ご指導をどうぞよろしく願います。



努力できるということも実力のうち

「先生のコトバ集」より